



## ふれあい月間 と 子供の気持ち

生活指導主任 久保 昭夫

### ふわふわ言葉

梅雨の季節になりました。6 月は「ふれあい月間」として気持ちが前向きになる、お互いが気持ちよく生活できるための「ふわふわ言葉」を使うこと、いいことを伝えあうことを目標に学校全体で取り組んでいます。先日行われた運動会の際も「がんばって!」「ナイス!」など、あたたかいふわふわ言葉がたくさんあふれ、八小の子供たちの輝く姿がありました。

### ホンネの気持ち

しかし……。梅雨のジメジメした季節、いやな気候の中で、うまくいかないことが重なったり、友達関係でいやな思いをしてしまったりしていく中で「バカ!きもい!あっちいけ!」など、ふわふわ言葉とは反対の言葉、相手を傷付けたり、嫌な思いをさせたりする暴言(学校では「ちくちく言葉」と呼んでいます)を使いたい気分の時、もしかしたら使ってしまう場面もあるかもしれません。人を傷つける言葉は使ってはいけないことは「タテマエ」として、「ホンネ」ではそんな気持ちの時、大人はどう子供たちに向き合っていけばいいのでしょうか。

### 子どもの「もがき」「代弁したいもの」を受け止める

「そんな言葉、使ってはいけません!!」ちくちく言葉を聞くと、つい大人はそう言いたくなります。でも子供の行動には「目的」があります。「目的」は物理的、社会的(友達、大人の関心)な安心、安全な居場所の確保です。子供は「もがき」や「苦しみ」を上手く表現できないものです。注意や叱責ではなかなか変わりません。なぜなら、自分の内面世界を整理したり、適切に言葉にしたりするすべを獲得する途中だからです。暴言、ちくちく言葉の正体は「くやしかった」「苦しかった」「もどかしかった」などのネガティブな感情の言語化の未学習(知らないこと、まだ身に付いていない状態)といえます。この子供が抱える「もがき」の共感者、代弁者になる大人として寄り添っていきたいと思います。

「そうか、あの子のこと、バカ!って言うくらいくやしかったんだね。」

「あっちいけ!って言いたいくらい腹が立たんだね。」

学校は、ご家庭とともにが、ともに子供の心に目を向けて、丁寧なやり取りを繰り返し、子供たちの内面世界の代弁者になれる大人、そして子供の「安全基地」として必要な場面で距離を近づけ、そうでない場面はそっと背中を押してあげる存在でありたいと思います。

